

電気学会 第6回技術者倫理研修会(2013. 8. 21) 実施報告書(暫定版)

1. 開催日時：2013. 8. 21 (水) 13:30～17:30 (情報交換会：17:45～)
2. 開催場所：電気学会本部 会議室
3. 参加者：26名 (大学・高専8名、電力会社1名、その他企業17名)
4. 研修会プログラム

今回の研修会は、政府が進めている運輸安全のための「事故調査」についての講演と倫理委員会が来秋に出版予定の技術者倫理事例集(第2巻)に編集予定の3事例を紹介した。

- ◆事例紹介1：第1章 震災を考える 「技術者のモラル」 【講師】喜古委員
- ◆事例紹介2：第2章 研究開発を考える 「島秀雄と技術者倫理「新幹線開発とその前後」【講師】川北委員
- ◆事例紹介3：第3章 視野を広げる 「低線量放射線の健康影響を巡って」【講師】佐藤委員
- ◆講演：「運用安全のための事故調査」 【講師】国交省 運輸安全委員会 委員 小豆澤 照男氏

5. 講演概要

(1) 事例紹介1：第1章 震災を考える 「技術者のモラル」

【要旨】テレビ局の記者が5年前に会社を退職した原子力燃料が専門であった退職者に福島第一の事故についてコメントがほしいと退職者の家を訪れる。しかし退職者は正確な情報がないこと。また自分は退職した身であり、正式見解を求めるなら会社の広報へ問合せよう申し出て断る内容の事例。

(2) 事例紹介2：第2章 研究開発を考える 「島秀雄と技術者倫理「新幹線開発とその前後」

【要旨】新幹線開発を牽引した技術者島秀雄氏が、開発から営業運転、騒音公害対策について発した名言の数々を紹介するとともに、「人間にとってごく本来的なモラルとは」について自身の考えを述べ、マクロエンジニアリングの姿を提案する内容の事例。

(3) 事例紹介3：第3章 視野を広げる 「低線量放射線の健康影響を巡って」

【要旨】福島第一事故で身近に経験したエピソードを使い、様々なリスクに対して立場・見解の違いがあること。その時に専門家として何ができるか、どのようなことが求められるか「リスク・トレードオフ」の考えを活用して社会的な意思決定に反映させていく必要があるという内容の事例。

(4) 講演：「運用安全のための事故調査」

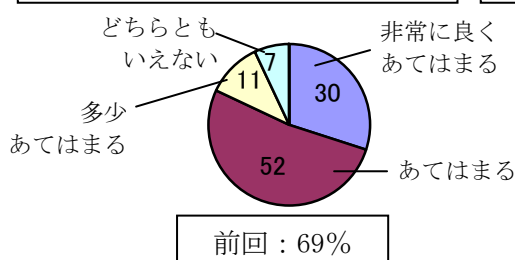
【要旨】運輸安全委員会発足するまでの変遷、役割と業務内容(事故・重大な事故兆候が発生した原因や事故による被害の原因を究明するための調査)を説明した後、6事例(例：福知山線事故)を引用して技術的・客観的な立場から、公正中立な調査を実施、再発防止策を提案する活動内容について講演。

6. 意見交換 (事例紹介1～3、講演を総括しての意見交換)

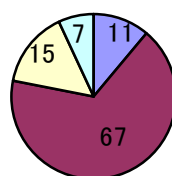
出席者から出された 個人と組織の倫理観の違いや、ことばの定義、リスクトレードオフ、工学倫理の考え方等の意見について議論を行った。

7. アンケート結果

問 4-1：研修会は総じて満足の
いくものだった



問 4-2：研修会の長さは適切だった



問 4-5：意見交換は有益だった

